

製品取扱説明書

【用途】 コンクリート・土木用防水剤

1. 一般名 無機質浸透・防水保護剤
2. 規格 社内規格
3. 特徴 WP-GSはコンクリート、モルタル面に塗布すると徐々に浸透して防水効果を発揮。高い弾性を持っており凍害等における表面の劣化を防止し、コンクリート面の風害、塩害と表面保護を目的としています。ハイドロプルーフ・WP-GSは無機顔料と混和することができ、コンクリート打放し面の表現手法に変化を持たせた防水仕上げをすることが出来ます。



HYDROPROOF® WP-GS



4. 一般性状	
項目	内容
主成分	変成シリコン+高分子ポリマー化合物
容姿	1液性
荷姿	20kg入り・10kg・2kg入り
色相	乳濁液
光沢	乾燥後下地により光沢有り
密度	1.01~1.02g/ml (20℃)
粘度	10mPa・s 以下
溶媒	水
P H	6.0~6.5
伸び率	250~260% (25℃)

5. 塗装基準	
項目	内容
洗浄	新設、補修工事とも塗布面の洗浄を行う。
養生	施工面以外、飛散の恐れのある所は、基本的に養生をする。特にガラス、アルミ、埴栽等に付着しない様、出来る範囲で行う。
塗布	下地コンクリートは十分乾燥させてから塗布が効果的。一般的な塗布量は 0.12~0.25kg/m ² だが防水目的の場合はこの限りではない。ローラー、ハケ、噴霧器で平均0.20kg/m ² は塗布する。施工面にグリースや油、塗料の一部などが固着していても機能上問題がなければ塗布可能。
乾燥	乾燥養生が長い程、強度が増す。

7. 関連法則	
危険物表示	該当無し
溶剤区分	無機溶剤
有害物質表示	該当無し
劇物表示	非該当

6. 施工上の注意
 1. 必ず良く振ってから使用する。
 2. ハイドロプルーフが付着した部分はすぐに濡れたウエス等で拭き取って下さい。
 3. 冬、施工時が常温であっても夜間に0℃若しくはマイナスになる場合は強制乾燥を行って下さい。
 4. 塗布面のオイル・グリース・離型剤等を取り除く事ができ無い場合はその周辺より浸透させてください。
 5. 塗布方法は特に選びません。
 6. H T - G T は大気中の炭酸ガスと接触して濁りだしますので、使用後は直ちに密封して下さい。鉛、亜鉛、スズ、アルミニウム等は腐食しますので接触を避けて下さい。
 7. 密封容器で保管していれば少なくとも12ヶ月は安定です。開封後は速やかに使い切ってください。
 8. 塗布後の余剰分や残留分は、必ずよく洗った布で拭き取ってください。拭き取りが甘かったり材質によっては白い斑点が出る場合があります。
 9. 塗布3日以降に散水し、施工面が吸水する場合は塗布量不足ですから、再度塗布して下さい。
 10. 万一、目に入った場合は大量の水で洗い、医師に相談するようお願い致します。
 11. 0℃以下での保存及び施工は行わないで下さい。
 12. 凍結した材料の使用は行わないで下さい。

8. 使用上の注意[警告]
特別危険性はなく施工上の注意を厳守。

9. F☆☆☆☆について

「フォスター」の表示は、塗料や内装材、建材で、「ホルムアルデヒド」の放散量の性能区分を示す為に新たに表示する義務が定められたものです。F☆☆☆☆(Fフォスター)は、JIS工場で生産されるJIS製品に表示することが義務づけられているホルムアルデヒド等級を示すマークです。ハイドロプルーフは塗料ではなく、水性無機化合物の劣化保護及び防水剤です。有害化学物質に指定されたシロアリ駆除剤のクロルピリホス及び、シックハウス症候群に関するホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンの1+5種類を有害規制薬物に指定。従って有機化合物であるフォルムアルデヒドは含まれていないため F☆☆☆☆に該当しません。

10. VOCについて

VOCとは、Volatile Organic Compounds の略で揮発性有機化合物のことをいいます。WHOでは大気中に気体で存在する有機化合物のうち、沸点が50℃~260℃の物質の総称と定義されています。上記有機溶剤に関しては非該当です。